

第3章 豊見城市の墓地の現況特性

豊見城市墓地実態調査の結果より、豊見城市の墓地の現況特性としては、以下の事項が挙げられます。

現況特性1 門中墓が多い

墳墓数は、平成9年度に沖縄県が行った調査では1,119基、平成23年度に豊見城市が行った調査では1,121基と墳墓数にあまり変化がないということが明らかとなっています。

平成23年度に実施した住民調査(アンケート調査)においては、豊見城市内に利用できる墓地があると回答した世帯への墓地の所有形態についての質問では、「門中墓(76.6%)」と回答した世帯が最も多い事が明らかとなっています。

平成9年度の調査と平成23年度の調査において、墳墓数に変化が見られなかったのは豊見城市内にある墓地の所有形態が「門中墓」が多いためと推察することができます。

これらのことより、豊見城市内の墓地の現況特性のひとつとして『**門中墓が多い**』ことがあげられます。

現況特性2 墓地密集地での墓地増加

墓地実態調査より、最も墳墓数が多かったのは、長堂の409基(41.7%)、次いで保栄茂の103基(10.5%)でありました。

長堂には、宗教法人の墓地があるため墳墓数が多いのですが、当該墓地は現在管理者がいないため、各墳墓の所有者が管理しており、実質的には個人墓であることが明らかになっています。

保栄茂には、糸満市との境界付近に墓地が集中しています。この付近には墳墓を設置するための基礎が設置されており、今後、墓地が増加していくと考えられます。

長堂および保栄茂のような墓地密集地では、墓地の増加が考えられるため、これらの地域の墓地設置状況について注視する必要があります。

これらのことより、豊見城市内の墓地の現況特性のひとつとして『墓地密集地での墓地増加』があげられます。

現況特性3 墳墓の建て替え・改修が進んでいる

墓地実態調査より、墳墓の形態では「平地式:家形墓(66.1%)」が最も多く、墳墓の素材では「コンクリート(61.6%)」が最も多く、次いで「御影石など(19.5%)」と近年の墳墓形式が多いことが明らかとなっています。

これらのことより、豊見城市内の墓地の現況特性のひとつとして、『豊見城市内にある墳墓は、改修や建て替えが進んでいる』ことがあげられます。

現況特性4 管理されている墓地が多い

墓地実態調査より、墓地の管理状況について「管理されていると想定される」が917基(93.2%)と最も多く、豊見城市内の多くの墓地が管理されている状況(無縁墓が少ない)にあることが明らかとなっています。

住民調査(アンケート調査)において、豊見城市内に利用できる墓地があると回答した世帯への管理回数についての質問で、「年に2回(32.5%)」、「年に3回(21.6%)」、「年に4回以上(20.7%)」と管理回数が年に2回以上であると回答した世帯が多く、豊見城市にある墓地管理者の維持管理に関する意識が高いということが明らかとなっています。

これらのことより、豊見城市内の墓地の現況特性のひとつとして、『豊見城市内にある墓地は、管理されている墓地が多い』ことがあげられます。